

注目に値すると感じました。

2波長のレーダーを用いた観測では、NCARのC. KnightらがCP-2ドップラーレーダーを用いて発達初期の雲からの反射強度からBragg散乱とRayleigh散乱によるものを分離する事により、雲内の雲水量に関する情報を得ようとしていました。この発表に対しては多くの異論もでてはいましたが、雹の研究で名高いC. Knightもレーダーを用いた研究を始めたことを知って少なからず驚きました。

ドップラーレーダーを用いた研究では、雲物理を意識したものとしてはdualドップラー（2台のドップ

ラーレーダー観測）の解析結果を基にリトリーバルを行った発表が2件あり、ドップラーレーダーを使うものとしては、そこまで頑張らなければいけないと感じました。また、この会議のChairmanであるP. Hobbsのグループの研究もdualドップラーを用いて前線に伴う降水バンドのサブ構造を丁寧に解析したものであり、発表方法も洗練されていたことが印象に残りました。

今回の学会出席にあたり、日本気象学会の国際学術交流基金より出席補助金を頂いたことを感謝いたします。

## 国際学術研究集会への出席補助金受領候補者追加募集のお知らせ

国際学術交流委員会

すでに天気39巻12号の紙上で1993年度上半期（6月1日～11月30日）について上記候補者の募集を行ない、2月28日に応募を締め切りましたが、今回は応募者が少なく予算に多少余裕があることから下記の要領で追加申請を受け付けます。

### 記

#### 1. 対象の集会

1993年8月1日～11月30日の期間外国で開かれる国際学術研究集会

#### 2. 応募資格

日本気象学会会員で国際学術研究集会に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。

#### 3. 募集人員

若干名

#### 4. 補助金額

開催地域を考慮し最高15万円程度

#### 5. 応募手続

所定の申請書類（日本気象学会事務局備付）を期日までに国際学術交流委員会（〒100東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内日本気象学会気付）に提出する。大学院生は指導教官の推薦状を併せて提出する。

期日：1993年6月30日

#### 6. 補助金受領者の選考・義務

当該集会終了後30日以内に委員会に報告書を提出する。